

ハエトリバチ亜科 (Mellininae) の解説

寺山 守

ギングチバチ科の中では、やや大型のハチで、腹部第1節が柄状で長い。前翅の第1中央室(DC1)は長く、縁紋よりも明らかに長い。中脚に2本の臍節刺を持ち、中胸背板の後縁付近に斜行する隆起縁がある。

本亜科は Mellinini 族と Xenosphecini 族の2族からなり、Mellinini 族はハエトリバチ属 *Mellinus* 1属のみから構成される。本属は世界に16種が知られ、日本からはハエトリバチ1種が生息する。

ハエトリバチ *Mellinus obscurus* Handlirsch, 1888

体長10-13mm。体は黒色で、大あごは黄色、腹部第3背板に1対の顕著な黄斑を持つ。頭部は幅広く、頭盾は短い、大あごには3歯をそなえる。

地中に巣を作り、地下5-20cmほどの所に2-4室の育房をつくる。1室に3-9頭のハエやアブを幼虫の餌として入れる。狩る餌は双翅目の他に、ヒメハナバチやヤマアリ類等も観察されている。山地に生息する。

従来、日本産の個体群に *M. arvensis* (Linnaeus, 1758)、あるいは *M. arvensis obscurus* Handlirsch, 1888 の学名も適用されて来たが、欧州に広く産する *M. arvensis* とは別種との見解を採用し、上記の学名を適用する。 *M. tristis* Perez, 1905 あるいは *M. obscurus tristis* Perez, 1905(ペレーキスジジガバチ)は本種の同物異名である。

分布：北海道、本州、四国、九州、千島列島（択捉島、国後島）；台湾、朝鮮半島、中国、モンゴル、サハリン、極東ロシア



文 献

- Gupta, S. K., Gayubo, S. F. & Pulawski, W. G., 2008. On two Asian species of the genus *Mellinus* Fabricius, 1790 (Hymenoptera: Crabronidae). J. Hym. Res., 16: 210-215.
- 田埜 正, 2010. 日本産ハエトリバチの学名について. つねきばち, 17:46.